

【国富町】

Ⅰ人Ⅰ台端末の利活用に係る計画

1. Ⅰ人Ⅰ台端末を始めとするICT環境によって目指す学びの姿

本町では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るため、Ⅰ人Ⅰ台端末の積極的な利活用を推進してきた。GIGAスクール構想第2期に向けては、以下のような児童生徒の学びの姿を目指していきたい。

まず「個別最適な学び」については、これまで予習型学習や单元内自由進度学習など、個々の理解度や学習ペースに合わせた授業改善に取り組んできた。取組は始まったばかりであり、今後もICT環境をフルに活用し、児童生徒Ⅰ人Ⅰ人の実態に合わせた学習計画のもと学習者主体の学びを進めていきたい。また「協働的な学び」では、学校内はもちろんのこと、児童生徒が地域や専門機関等とオンラインでつながり、多様な考えに触れることで自己の考えを整理したり、広めたり深めたりできるようにしていきたい。

2. GIGA第1期（～令和6年度まで）の総括

本町では、令和2年度中に校内通信ネットワークとⅠ人Ⅰ台端末を整備し令和3年度から本格的な利活用を開始した。教育委員会では、設置する町教育研究センターにおいて、令和3年度から6年度まで、学校におけるICTの効果的な利活用等についての研究を行うとともに、先進地域の視察や講演会・研修会を開催し、町内全学校への普及を図ってきた。また、AI教材の配備や、汎用クラウドツールのID付与などICT環境の整備にも努めてきたところである。課題として学校・教員間で取組の差が見られることから、今後は、全学校で校務DXを推進するとともに、ICT環境を生かした授業改善に取り組むなど、教育全般のDXに向けた取組を加速したい。

3. Ⅰ人Ⅰ台端末の利活用方策

(1) Ⅰ人Ⅰ台端末の積極的な利活用

授業での利活用はもちろんこと、学校行事や児童会・生徒会活動、AI教材による家庭学習など、あらゆる場面での積極的な利活用を推進する。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

ICT環境をフルに活用し、児童生徒Ⅰ人Ⅰ人の実態に合わせた学習計画のもと、学習者主体の学びをさらに推進する。

(3) 全ての児童生徒の学びの保障

不登校の児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒、障がいのある児童生徒などに対し、ICT環境を利活用し学習機会を確保していきたい。